



子どもの医療費無料化・中学校給食で変化が

2月市会へ 市民のための政策を前に動かすためにがんばります

この間、子育て施策をめぐり、大きな変化が起っています。一つ目には京都府が小学校卒業まで無料化を図るために、子どもの医療費無料化が拡充されることになりました。これまで3歳以降は、通院の場合、月1500円を超えないと無料化にはなりませんでしたが。今年の秋から京都市でもその最低水準の小学校卒業まで拡充されます。子どもの命を守る制度として、更なる拡充が必要であり、議会内外で求めていきたいと思えます。

二つ目には、中学校給食は現在、選択制のお弁当形式であり、経済的に厳しい家庭も、共働きで時間的にお弁当がつくることができない家庭も含め、課題を持ったまま、京都市は肯定的に「愛情弁当論」などを答弁してきました。先日の「教育福祉委員会」で「全員制の中学校給食に向けた調査」を行うことを公式な答弁として、発表しました。

今後、調査がされ、計画が立てられるわけですが、早期の全員制の温かい給食に向けて、自校方式や親子方式など、単なる委託による財政支出を抑えるためのものでなく、成長期の中学生にふさわしい給食へと実現できるようにがんばります。

三つ目には、来年度に値上げが予定されていた地下鉄の運賃の値上げがストップとなりました。主な理由として挙げられているのは、国による支援制度の拡大とされています。しかし、内容はすべて借金であり、京都新聞でも先延ばしとの批判がされていました。必要な施策は、コロナ禍のもとで、人流抑制をした影響を国が補填すること、独立採算性の枠で縛っている法律そのものを変える必要がどうしてもあります。

しかも市バスについては、依然として値上げ路線を突き進もうとしています。もともと、多くの都市でバスの採算が厳しい状況にあり、地下鉄同様、国が支援を行う必要があります。

どちらにしても、これまでの多くの市民の声が京都市を動かしているに変わりはありません。福祉の切り捨ても依然として撤回の意向がない、来年に控えた市長選をにらんでの動きも施策の前進の一部だと思えます。

引き続き、市民のみなさんの声をお寄せいただき、共産党の議席を増やしていただくことが市政転換の近道です。

1月後半・2月のトピックス



1/19
日本共産党市会議員団の
定例「憲法宣伝」



2/2
敬老乗車証守ろう
連絡会のみなさんと
一緒にシュプレヒコ
ール、そのあとの懇
談にも参加しました

2月市会の日程

- 2月16日 本会議
 - 2月17日 補正予算委員会
 - 2月20・21日 常任委員会
 - 2月24日 補正予算結了委員会
 - 2月27・28日 本会議(代表質問)
 - 3月1日～3日 予算委員会
 - 3月6～10日 予算委員会
 - 3月13・14日 市長総括質疑
 - 3月20日 予算・議案等結了委員会
 - 3月22日 本会議(最終)
- 2月16日から2月市会がはじまります35日間となります。代表質問はKBS京都で放映がされます。また、予算委員会等は「京都市会」ホームページから視聴が可能です。ぜひご覧ください。